

平成27年 8 月20日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 経営管理本部長 吉野 公一郎
(TEL：078-302-7075)

広島大学原爆放射線医科学研究所との共同研究契約締結のお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、国立大学法人広島大学（学長：越智光夫、所在地：広島県東広島市、以下「広島大学」という）と、慢性骨髄性白血病（CML）のがん幹細胞を標的とした治療薬開発に関する共同研究契約（以下「本共同研究契約」という）の締結を決議しましたのでお知らせいたします。

記

1. 本共同研究契約の目的

当社と広島大学原爆放射線医科学研究所は、CMLのがん幹細胞を標的としたキナーゼ阻害薬を共同で研究開発（以下「本共同研究」という）を行います。

2. 本共同研究契約締結の背景と内容

現在、CMLの治療には、イマチニブメシル酸塩（商品名：グリベック、製造販売元：ノバルティスファーマ株式会社）をはじめとするチロシンキナーゼ阻害剤が広く使用されており、大きな治療効果を示していますが、一部の患者さんでは、CMLが根治せず再発することがあり、CMLの治療を行ううえで大きな問題となっています。一方、近年、がん克服のアプローチとして、がん細胞を生み出すもととなる「がん幹細胞」が注目を集めており、白血病細胞の中にも少数のがん幹細胞が存在することが明らかとなっています。さらに最近の研究では、チロシンキナーゼ阻害剤治療後の再発の原因として、このCMLのがん幹細胞が大きく関与していることが明らかになっています。

広島大学 原爆放射線医科学研究所 幹細胞機能学研究分野(瀧原義宏教授)では、白血病等の難治性疾患に対して、再生医学の観点から先端的な治療戦略を開発すべく、造血幹細胞に関する研究を進めています。今般、同研究分野に本年4月に着任した仲一仁准教授らと、CMLのがん幹細胞を標的とした新しい医薬品候補化合物の創製を目指し、共同研究を開始することとなりました。本共同研究の開始に伴い、幹細胞機能学研究分野で培ってきた幹細胞に関する解析技術と、当社が有するキナーゼ阻害剤の創薬に関するノウハウを結集させることにより、当社

が取り組んできたがん幹細胞を標的とする新世代の医薬品候補化合物の創製研究がさらに加速されることが期待されます。

3. 今後の業績に与える影響について

本共同研究契約の締結が、当社グループの連結業績に与える影響は軽微であります。

以 上

(ご参考)

広島大学の概要

- (1) 名 称： 国立大学法人広島大学
- (2) 学 長： 越智光夫
- (3) 所 在 地： 広島県東広島市鏡山1丁目3番2号
- (4) WEB サ イ ト： <http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html>

広島大学原爆放射線医科学研究所の概要

- (1) 名 称： 原爆放射線医科学研究所
- (2) 所 長： 稲葉俊哉
- (3) 所 在 地： 広島県広島市南区霞1丁目2番3号
- (4) WEB サ イ ト： <http://www.hiroshima-u.ac.jp/rbm/>